

8月21日～26日、本校の生徒6名がフィンランドのヘルシンキで研修を行います。ジェンダー施策の先進国であるフィンランドで、企業、保育園、小学校、高等学校、政府施設等を訪問して聞き取り調査を行い、「日本人女性のジェンダーギャップ」について研究を深める予定です。また現地の高校生や小学生との交流を通して、お互いの歴史や文化について学習します。

8月21日（月）ヘルシンキに到着しました



[成田空港・お見送りの保護者の方と共に]

成田空港からヘルシンキへ

8月21日、成田空港を出発し、予定どおりヘルシンキに到着しました。現地の気温は17度。湿度も低く、かなり涼しく感じますが、生徒たちは元気いっぱい。ホテルに到着した後は、長旅の疲れも見せずに周辺の散策へと出かけました。

古い赤レンガでできたビール工場の跡地は、オフィスや商業施設として再利用されています。また、1903年から続く“ヒエハラハティマーケット”は、以前はアンティークマーケットでしたが、2012年に近隣住民の要望で食べ物中心のマーケットにリニューアルされたそうです。古い建物やデザインを大切にしながら、新しい価値を見出す北欧フィンランドの精神を垣間見たような気がしました。

いよいよ明日からフィールドワークが始まります。ジェンダーや福祉の先進国で、自分の目で施策を見て話を聞き、日本で提言へとつなげていきたいと思います。



[ビール工場が商業施設に]

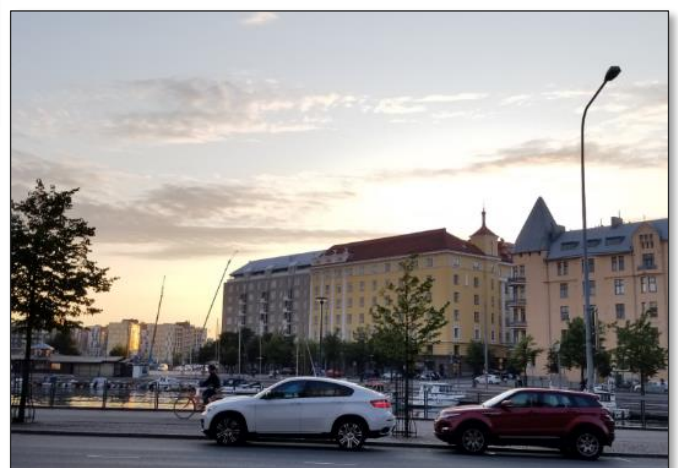


[ヒエハラハティマーケット]



[ディナータイム]

日本時間0時頃ですが皆とても元気!



[ヘルシンキ 夜9時]

やっと夕日が出てきました。

■ ■ ■ フィンランドの小学校を訪問



【エースティカッリオ小学校にて】



【“T”の文字を身体を使って学習する子供たち】



【休み時間には子供たちにインタビュー】



【給食もごちそうになりました】

■ エースティカッリオ小学校

2日目の午前中、エスポー自治体にあるエースティカッリオ小学校を訪問しました。世界中から視察が集まる学校で、日本の団体も毎年視察に来るそうです。

教員は28名中23名が女性。フィンランドでは、教員になるのは大部分が女性なのだそうです。

今年度の学校のテーマは「平等」であり、どのような家庭環境・文化・背景であってもみんな平等であるということを前提に教育しているということをお伝えいただきました。なかでも生徒にアンケートをとり、無意識に不平等にしていないかを見直して、平等な対応をするように心がけているという話は、私たちの研究テーマである「日本人女性のジェンダーギャップ」にもつながり、生徒たちは積極的に質問を投げかけていました。

フィンランドでは小学校生活がスムーズにスタートできるよう家庭で万全な準備をしなければいけないという法律があり、99%がプリスクールに通っているそうです。エースティカッリオ小学校でもプリスクールを実施しており、働く方のために17時まで預かるサービスも提供しています。低学年の生徒も同様のサービスを受けることができ、徹底した子育て支援の制度に生徒たちも感銘を受けていました。

小学校訪問の後、ヘルシンキ中心部にあるカンピ礼拝堂を見学してホテルに戻りました。

フィンランドの教育制度や平等への精神を肌で感じた生徒たち。その学びを胸に、夜は翌日の高等学校訪問に向けて、就寝直前まで事前学習を頑張っていました。



【カンピ礼拝堂にて】
もみの木で作られた別名「静寂の教会」と呼ばれる礼拝堂です。



【翌日の準備をする生徒たち】
翌日の高校訪問では、プレゼンテーションとディスカッションを行う予定です。同世代との交流で大きな成果が得られるよう、真剣に準備に取り組みます。